

大企業のIT担当者が頭を抱える 「Mac導入」の解決策

2021年6月24日、MicrosoftはWindows 10の後継となるOSとして、Windows 11を発表しました。現在多くの企業で利用されているWindows 10については、2025年10月を持ってサポートを終了するとされています。10年前であれば、サポートが終了するまでに社内のデバイスがシステムの要件に合っているかどうかを確認し、デバイスの交換をするだけだったかもしれませんが、ここでMacの導入を検討してみてもいいでしょうか。

Macは長く利用できるように設計された高スペックのコンピュータであり、昨今、企業におけるMacの利用率は増加傾向にあります。SaaSの拡大により、OSに依存せずアプリケーションを活用できることやOS内蔵のセキュリティにより、安全性が担保されていることなどが企業でのMac利用率増加の要因として挙げられます。

しかし、IT担当者の皆様の中には、自社へのMacの導入に不安を持たれる方もいらっしゃるかと思います。そこでAppleデバイス管理のデファクトスタンダードであるJamfがIT担当者の皆様に悩ませる疑問や課題にお答えします。

FAQ

Q1 前にMacの導入を検討したことがありましたが、コスト面で断念しました。実際、Macは高いですよね？

MacBook1台が\$999前後ですので、Macの購入にかかる費用はWindows PCと比較して高いかもしれません。しかし、MacにはOS内蔵のセキュリティやフレームワークがあり、組織の資産としてデバイスを管理する機能がもともと備わっています。一方、Windowsで同様の環境を実現しようとする、追加で種々のツールを購入する必要があります。また、IBMの調査で、従業員選択制を導入した結果、運用時のコストがWindowsに比べて、Macの方が一台あたり\$273から\$543ドル安くなるということが分かっています。デバイスそのもののクオリティ、また組織として運用するにあたってのコストなど、長期的な視点でトータルコストを考えるとMacの方が安いと言えます。

Q2 社員からMacを使いたいという声が上がってきているのですが、MacがWindowsと比較して優れているところはどこでしょうか。

上述したようなOS内蔵のセキュリティ、フレームワークを活用できるという面に加え、CPUの処理能力、バッテリーの持続などの高い性能、そして、高い性能を誇るにもかかわらずコストが安く抑えられている点があげられます。また、iPhone、iPadといったAppleデバイスを普段から使用している方にとっては、一貫したUIで業務を行えるため、職場とプライベートでデバイスの使い勝手に差異が少なく、使いやすいという点も挙げられます。



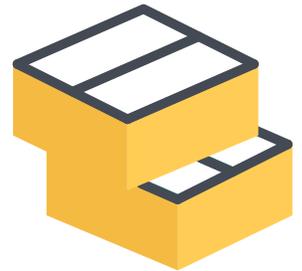
Q3 MacでもWindowsで使用しているアプリケーションは動きますか。これまで使っていたアプリケーションが使えないと困ります。

今日、多くのアプリケーションがOSに関係なく動作するように設計、あるいはMacとWindowsの両OSに対応した

形で設計されており、例えば、OfficeにはMac版が用意されています。加えて、クラウドサービスが広がった今日では、Webベースで動くアプリケーションが広く活用されており、対応するWebブラウザをインストールすることでOSに依存せずに業務を行うことができるようになっています。

Q4 複数台数のMacを管理するコツはありますか？

MDMフレームワークおよび、Jamfは大量のMacを一括管理することを前提に作られています。例としてSmart Groupは端末のインベントリ情報に応じて、動的に変化するGroupingが可能で、問題のある端末を即座に見つけ、対処することを可能にします。また、新しい社員の入社時はデバイスを受け取ってから業務を始めるまでに障害になる要素を全て取り除いていく必要があると思います。セットアップに色々な手順書を読まないといけない状態は、社員が本当に取り組むべき業務の妨げになるため、スムーズに業務開始を行うためのMDMツールの導入が必要と考えられます。Appleの提供するABMに完全に準拠し、ゼロタッチキティングをJamfで構築すれば、端末セットアップの工数を最小化することができます。



Q5 MDMとはなんですか？

MDMとは、Mobile Device Managementの略で、PC、スマートフォンやタブレットなど、業務で利用する端末を一元的に管理するための仕組みを指します。MDMを導入することで、管理者は対象となる複数のデバイスを遠隔で管理・操作できるようになり、企業においては、新入社員の入社時のデバイスのセッティングを簡便化、また、OSのアップデートを管理し、従業員のデバイスのセキュリティが企業の基準を満たしているかを管理できます。

Q6 資産管理ツールは入っているのですが、それでは不十分でしょうか？

資産管理ツールの多くが常駐のアプリケーションでデバイスのパフォーマンスへの負荷が高いことに加え、アプリケーションの配布ができない、デバイスの紛失、盗難時の遠隔コントロールができないなど組織の資産としてデバイスを管理する上で必要な機能が備わっていないことが多いため、Macの管理にはMac専用のデバイス管理ツールを導入することをおすすめします。

Q7 MDMを用いることで具体的にどのようなことが実現できるのでしょうか。

例えば、以下のようなことが実現できます。

- 組織内の端末の情報を効率的に収集。

OSのバージョンやインストールされているアプリなどの情報を収集し、企業の運用ルールに則って正しく使用されているかをチェックできます。

- 組織内で利用するアプリなどのリモート配信。

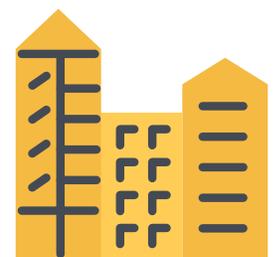
App Storeで購入したアプリ、または組織内のカスタムアプリを遠隔から配信できます。

- 組織内の運用ポリシーにあわせた端末の一括設定。

パスコードやWi-Fi、メール、セキュリティ、利用制限などを定義した構成プロファイルを作成し、ワイヤレスで端末に適用できます。

- リモートからのタスクの強制的実行。

端末の盗難や紛失時に、遠隔から端末内のデータを削除したり、端末にロックをかけたりで



きます。さらにJamf Proを活用すれば、お客様の組織に合わせた多種多様なデバイス管理を実現することができます。

Q8 従業員が増えてきてキittingが大変です。MDMを入れることで、どこまで簡略化できますか？

Apple Business Manager (ABM) と合わせてJamfをご利用いただくことで、IT管理者が端末に触れることなくMDMの管理下に置くことができます。事前に作成した構成プロファイルをMDMからワイヤレスで流し込むことでキittingの工数を大幅に減らすことが可能です。



Q9 キittingも大変なのですが、端末が増えるとApple IDの管理が煩雑になってしまいませんか？

キitting同様にApple Business Manager (ABM) をご利用いただくと、アプリケーションのダウンロードや管理が容易になります。また、ABM上で作成できる管理対象Apple IDを使うことで、管理が簡易化し、具体的には、作成時の電話番号認証なども必要ありません。また、MDMを使って個人のApple IDの利用を制限することもできます。組織で指定したID以外は使用させない、一部の機能を停止させると言ったことも実現可能です。

Q10 Apple Business Managerとはなんのでしょうか？

Apple Business Manager (ABM) は、法人でAppleデバイスやアカウントを管理し、MDMによる管理をサポートするためのApple純正のWebポータルです。よく勘違いされるのですが、ABMだけでは端末の管理は完結しません。ABMは基本的に、MDM (Mobile Device Management) 製品と連携して利用するサービスです。ABM自体は無料で登録・利用できますが、ABM単体では購入したアプリや制限設定を配布することができません。ゼロタッチ導入の際の初期設定の内容も、MDM側で構築する必要があります。

Q11 これまでにMacを管理したことがないのですが、Macの管理には何を準備すれば良いでしょうか？

Jamfでは、Jamf Proの購入時にJumpstartという導入トレーニングを提供していますので、現時点でMacの管理に関して経験がない場合でも問題ありません。お客様が利用を始めるタイミングで、Jamfの技術認定を受けたエンジニアがJamf上で行いたい設定や、さまざまな構成プロファイルの設定など、お客様の組織に合わせた設定をお手伝いします。また、Jamf100(無償)、200(有償)というトレーニングコースもご用意しておりますので必要に応じて、オンラインでトレーニングを受講していただくことが可能です。

Q12 社内で利用している端末のほとんどがWindowsなのですが、Macを新たに導入した場合、MacとWindowsは共存できますか？

Jamf Proを活用することでMacにおいても、Windowsと同等の管理を実現することができます。また、JamfはWindows端末管理に広く使われているMicrosoft Endpoint Managerとも連携するため、Macの詳細なインベントリ情報をIntune同一の画面上で確認することができます。

Q13 Macをこれまでに管理したことがなく、セキュリティに不安があるのですが、Macのセキュリティは安全なのでしょうか？

上述の通り、Macは設計段階からセキュリティが内蔵されており、その仕組みはOSのUpdateをすることによって最新に保たれます。また、組織全体のMacのセキュリティ状況を可視化したいということであれば、Jamf ProtectというJamfが提供する別の製品をご利用いただくことによって、内蔵されているXProtect、MRT、Gate Keeperなどのツールの動きを可視化して、適切に対応することができます。



Q14 macOSは毎年新しくアップデートされますが、すぐにアップデートできますか？あるいは、社内で確認するまでアップデートせずに古いバージョンで留めることは可能ですか？

Jamf Proを活用することでMacにおいても、Windowsと同等の管理を実現することができます。また、JamfはWindows端末管理に広く使われているMicrosoft Endpoint Managerとも連携するため、Macの詳細なインベントリ情報をIntune同一の画面上で確認することができます。

Q15 Macを導入してからトラブルが発生した場合、どこに頼れば良いのでしょうか？

まず、Macのデバイス自体に故障などの問題が発生した場合には、Appleが用意する有償のApple Care for Enterpriseというものを利用いただければ、企業向けのサポートを受けることができます。さらにAppleデバイスはAppleの認定を受けた頼れる販売店が複数存在しますので、そちらで対応してもらうことも可能です。Jamfの操作をする中で発生したトラブルやご質問については、テクニカルサポートにて対応可能です。もちろん日本語でのサポートをご提供しています。また、Jamfには、Jamf Nationという世界最大のApple 管理者コミュニティが存在し、このJamf Nationには100,000を超えるApple管理者がおり、そこでAppleデバイス管理に関するさまざまな議論や意見交換が行われています。素早く情報を収集できるコミュニティになっており、緊急時の対応の強力な味方となるでしょう。

Q16 管理設計には欠かせない、構成プロファイルとはなんのでしょうか？

構成プロファイルとは、.mobileconfigの形式で作られる設定情報ファイルのことで、このファイルの中で、端末機能制限、Wi-Fi設定、VPN設定などの各種設定を行います。Jamf Proを使えば作成した構成プロファイルを[編集]し、[Scope]から配布対象を選択することで適用でき、複数台の端末へプロファイル適用が完了します。

Q17 IdPとして既にAzure ADを導入しているが、連携できるのでしょうか？

可能です。Jamf Proに統合すると、Azure ADドメインサービスを構成することなく、インベントリ収集のためにすべてのユーザおよびグループを検索したり、ユーザのメンバーシップ検索を実行し、それらを利用してJamf Proの関連アカウントに権限をマッピングしたり、さまざまなLDAPワークフローを実行することができます。

